

## 5 館内学習プログラム【お迎え事業】

### (1) 館内学習支援活動について

※ 博学連携の具体例として、熊本博物館は現在『学校教育支援事業』の「ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）」に取り組んでいます。

この事業は、博物館が有する価値ある収蔵資料や学芸員・研究員の専門知識および技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めるとともに、主体的に生きる力・生き抜く力の育成を支援するために行っています。社会科、理科を中心に（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）、先生方の指導を補佐しながら、学習内容・学習指導の充実を図り、教育効果を高めることを目指しています。

さて、リニューアルオープン後は学校教育支援事業の両輪として位置付けている「館内学習支援活動（お迎え事業）」をスタートさせます。次のページ以降に、館内展示資料を教材とした「館内学習プログラム展開案・学習シート」のプログラムセットを50題材紹介しています。

博物館には展示資料や収蔵資料を通して、ご来館の皆さまに「伝えたいこと」があり、来館者の方々には資料を介して「知りたいこと」があるはずで、博学連携の核は言うまでもなく児童・生徒の皆さんですから、「伝えたいこと」と「知りたいこと」がリンクするプログラムを提示するためには、学芸員と学校の先生方との協働作業が不可欠であると考えました。

そこで、市内の小中学校の先生方（8名）に研究協力員として参画していただきながら平成28年度中に原案を作成し、本年度（H29）は館内職員で編集・校正作業を重ね、この冊子ができあがりしました。

このプログラムは、学校での団体利用時に引率の先生と学芸員・研究員とのT・Tで実践できれば効果的だと考えていますが、詳細はご相談いただきたいと思います。積極的なご活用、多くの団体利用をお待ちしております。

本プログラムの実施・活用の方法等につきましては、リニューアル前に再度ご連絡いたします。

この冊子中の写真等は全てモノクロ印刷になっておりますが、館内学習の際には、カラー印刷して配布する予定です。

※ 「問い合わせ先」は、裏表紙内側に記載しております。